

茨木市立 北 中学校 全国学力・学習状況調査分析結果

令和5年10月作成

【今年度の結果と取組みについて】



(領域ごと)

- | | |
|------------------|---------------|
| ①言葉の特徴や使い方に関する事項 | やや課題が残る結果であった |
| ②情報の扱い方に関する事項 | 概ね良好な結果であった |
| ③我が国の言語文化に関する事項 | 概ね良好な結果であった |
| ④話すこと・聞くこと | やや課題が残る結果であった |
| ③書くこと | 概ね良好な結果であった |
| ④読むこと | やや課題が残る結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|---------------|
| ①選択式 | やや課題が残る結果であった |
| ②短答式 | やや課題が残る結果であった |
| ③記述式 | やや課題が残る結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もっとも正答率の高かった設問…(2一)事象や行為、心情を表す語句について理解しているかどうかをみる内容
- ・もっとも正答率の低かった設問…(3二)漢字を正しく書くことができるかどうかをみる内容
- ・もっとも無解答率の高かった設問…(4三)文章の構成や展開、表現の効果について根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる内容

分析

1 傾向

「やや課題が残る結果であった」領域が多く、普段の学習課題に概ね前向きに取り組んでいるが、結果として表れてはいない。特に「読むこと」に課題が多くみられる。

2 成果

(3四)のように書く内容が明確である問題は正答率が高い結果であった。(4三)の文章の構成や展開、表現の効果について根拠を明確にして書く問題も正答している生徒が多かった。学習活動の中に、自分の意見を書く活動を多く取り入れていることの成果だと考えられる。

3 課題

「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較し表現の効果について考えること、具体と抽象など情報と情報との関係について答えること、文章の要旨を把握することなどに多くの課題がみられる。また、「書くこと」において、自分に関することや自分の考えを書くことに関して課題が見られる。

4 授業での重点的な取組み

「読むこと」の情報と情報の関係を理解しながら読むことができる力を伸ばすために、授業で具体例を示し、抽象を文章から探すなどの活動を多く取り入れる。

(領域ごと)

- | | |
|---------|---------------|
| ①数と式 | やや課題が残る結果であった |
| ②図形 | 概ね良好な結果であった |
| ③関数 | やや課題が残る結果であった |
| ④データの活用 | やや課題が残る結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|---------------|
| ①選択式 | やや課題が残る結果であった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | やや課題が残る結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

・正答率が高い生徒においても誤答が多い設問

(1) 自然数の意味を理解しているかどうかをみる内容 (5) 累積度数の意味を理解しているかどうかをみる内容

・全国平均より特に低い設問

(6-2) 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる内容

・全国正答率は低かったが、正解した生徒は多い設問

(9-1) ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる内容

分析

1 傾向

基本的な計算が定着していない生徒が一定数いる。また、証明問題に対してあきらめてしまう生徒が多い一方で、図形の問題など授業でも楽しんで教え合って取り組んだ問題に関しては、証明問題でもチャレンジする傾向がある。

2 成果

授業で教え合いの時間を取る中で、説明する力が少しずつついてきた。(9-1)のように証明することを求められる記述式の問題であっても取り組もうとする姿勢が少しずつ見られ、正答率が全国平均を上回った。

3 課題

さらなる基本的な計算の定着と証明問題など書く力の育成を図り、難易度の高い問題の解答率を減らすための取り組みをすすめる必要がある。

4 授業での重点的な取り組み

授業初めに計算トレーニングと、説明をする時間を設ける。授業プリントで学んだことを練習プリントで確認し振り返る。

(領域ごと)

- | | |
|-------|---------------|
| ①聞くこと | やや課題が残る結果であった |
| ②読むこと | やや課題が残る結果であった |
| ③書くこと | やや課題が残る結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|---------------|
| ①選択式 | やや課題が残る結果であった |
| ②短答式 | やや課題が残る結果であった |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

・全国平均より大幅に低い設問

(1-3)情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる内容

・全国正答率が低かった問題だが、正解した生徒が多い設問

(8-2)社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる内容

・全国正答率が高い問題だが、誤答した生徒が多い設問

(1-3)情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる内容 (5-2)「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことができるかどうかをみる内容

分析

1 傾向

基本的知識の定着は見られるが、状況に応じて応用することが苦手である。また、全体的に「読むこと」が苦手である。

2 成果

思考を伴う問題、特に「記述式」の問題に関しては一定の成果が見られた。授業でのコミュニケーション活動の中で、文法的なミスに気にせず、自分の考えを英語で表現する取組みを、帯活動において行っている成果と考えられる。

3 課題

知識のさらなる定着と、身に着けた知識の応用力を向上させる必要がある。特に語彙力を伸ばすことが課題である。また、問題の難易度があがると、無解答率が高くなり、難しい課題に対しても粘り強く取り組む必要がある。

4 授業での重点的な取組み

授業では、帯活動として様々なコミュニケーション活動を行っている。小さなミスに気にするのではなく、まずは英語で話すことに重点を置いている。それと同時に基礎基本の定着を目指し、基本例文のミニテストを繰り返し実施している。

5 「話すこと」調査に関して

全国平均を下回る結果であった。特に最後の問題に関しては正答率が非常に低く、何が問われているか理解できていない生徒も多いと思われる。

〇●経年比較●〇

全体的な傾向についての分析

平均正答率は、ここ数年は上昇傾向にあったが、今回は減少した。
無解答率は、昨年度と同様の結果となった。

この結果から、生徒自身が学びたいと思えるような授業づくりを考えていく必要がある。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

学力高位層は、過去5年の平均を下回った
学力低位層は、過去5年の平均と同等程度の結果となった。
エンパワー層も、過去5年の平均を上回った。

この結果から、エンパワー層の学力向上を目指すため、さらなる基礎学力の定着を図る。

〇●取組み●〇

学力向上に関する取組み

授業力の向上

(1) 年3回の授業力向上研修

「全員が参加し『学び』が保障された授業」を目指し、教職員全体で研究を進める。

(2) 全教員授業参観交流

全教員が校内で授業を公開、互いに参観し、「思考力(じっくり考える力)、表現力(正しく相手に伝える力)の育成」に焦点を当て、授業改善に努める。

(3) 教科会議

時間割内に教科会議の時間を設けて、年間を通じて教科内の連携を深め、より深い授業研究をめざす。

自学自習の改善

(1) 計画的な宿題

各教科、テスト前に集中して宿題を課すのではなく、定期的に着実に力をつけることに重点を置き、家庭学習の改善を図る。

(2) 一人一台端末の活用

ミライシードや Microsoft teams を活用して、生徒一人一人に応じた課題設定の研究を進めて、主体的に学習に取り組む態度の育成につながる学習環境を構築する。

保幼小中連携

(1) 小中授業実践項目

中学校入学後の子どもの段差解消を図り、学力向上を進めるため、小中で授業の基本的な流れを統一していく。

(2) 保幼小中連携カリキュラム

校区全体として、「目標に向かって最後まで努力できる子どもを育てる」を目標に、学習指導で「つながり力」「ゆめ力」、生活指導で「自己管理能力」「伝達力」、教科指導で「書く力」「論理的思考」をそれぞれの発達段階の応じたステップを定めて、保幼小中で連携して育成を進めていく。

(3) 保幼小中合同研修、保幼小中合同授業研修

校区全体で統一されたテーマを、各校園所で研究し、合同研修にて交流、進行状況の確認、修正を行う。